

あったか部会

めざす子どもの姿

すすんであいさつをし、自分にも友だちにもあったかい子

1. 取組の柱

1. 一人一人を大切にしたい学校・学級集団づくり
2. 人権教育・特別支援教育・道徳教育等を通じた豊かな心の育成

2. 取組の柱の設定理由

(1) 「一人一人を大切にしたい学校・学級集団づくり」について

本校では、これまで授業において、思考力・表現力を育成するために、仲間とかかわりながら学習することを重視した取組を進めてきた。このような授業をすすめていくには、一人一人を大切にしたい集団づくりが不可欠である。これまでも、Q-Uやあったかプログラムを活用して集団づくりを進めてきた。しかし、昨年度のQ-Uの結果では全体の67%が学級満足群に属しているが、9%が学級不満足に属している。これは約10人に1人は学級に不満足で、さらにその30%が要支援の児童にあたる。また、あったかアンケートの結果においては、「自分のことが好きだ」という項目で、(とてもそう思う42%、少しそう思う30%、あまり思わない15%、全く思わない13%)という結果になった。肯定的な評価が72%あるが、5人に1人は自分に自信がない児童がいることがわかった。このような現状をふまえ、あったかアンケートとQ-Uの分析結果から、個々への対応として個人面談やその学級に応じたSGE(構成的グループエンカウンター)を実施していきたい。仲間のよさに気づき、自他を大切にできる子どもに育てるために、まずは教師自らが言動を意識して日々の実践を行う。教師の価値観や言動が児童に大きく影響してくるので、名前を正しく呼び、個々の児童の実態に合わせた指導やあったかい声がけをして、児童の自己肯定感を高めていきたい。

(2) 「人権教育・特別支援教育・道徳教育等を通じた豊かな心の育成」について

豊かな心とは、「自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など」である。このような豊かな心を育むためには、「子ども同士のかかわり」を中心にして、各教科・特別な教科道徳・総合的な学習の時間・特別活動など学校教育のあらゆる場を通じて取り組んでいく必要がある。具体的な取組として児童が自発的にあいさつできるようにしたい。それは、お互いが気持ちの良いあいさつをすることで、個人を認めることができ、互いの自己肯定感も高まってくるのではないかと思う。友達や先生を自然と意識したり認め合えたりする学校は、居心地の良い場所であり、自分らしさを出せる居場所となるのではないだろうか。豊かな人権感覚を育むために、地域の方々とのコミュニケーションの機会も取り入れながら、情報モラル・平和学習など様々な学習や体験を通して各学年に応じて豊かな心を育てていく。